

進む乾燥化

■乾燥化とそれに伴うカニの分布の変化

Fig.1は2016年12月に撮影された七北田川河口、水門付近である。現在は赤色で囲んだ範囲に砂地が広がり (Fig.2)、コメツキガニが分布している。チゴガニ (Fig.3)、ヤマトオサガニ (Fig.4) は水際に分布している。

Fig.5はFig.1の黄色で囲んだ部分を2012年8月撮影したものである。当時は泥地が広がり、チゴガニやアシハラガニが分布していた (レポートNo.40,62参照)。宮城県沿岸では2011年の震災で地盤が沈降した後、少しずつ隆起している。隆起にともない泥地から砂地へと乾燥化が進んでおり、生物の分布も変化している。

なお、先月に続いて、七北田川河口でアリアケモドキ (レッドデータブック宮城県カテゴリーNT 準絶滅危惧種) を観察することができた。



(Fig.1 七北田川河口 水門付近 2016年12月撮影)



(Fig.2 七北田川河口 水門付近の砂地)



(Fig.3 チゴガニ)



(Fig.4 ヤマトオサガニ)



(Fig.5 七北田川河口 水門付近 2012年8月)